

子宮頸がんに対する組織内併用腔内照射のための preplan 手法の評価

1. 研究の対象

2024 年 9 月から 2031 年 3 月までの間に大阪国際がんセンターにて子宮頸がんに対する腔内照射を受けられた方またはこれから受けられる方

2. 研究の概要

研究期間: 総長の研究実施許可日～2031 年 3 月 31 日

研究目的: 子宮頸がんの治療では、外照射とあわせて、子宮内と腔内に専用の器具を入れて放射線を当てる「腔内照射」を行うことが一般的です。しかし、腫瘍の広がりによっては、通常の腔内照射では十分に放射線を当てにくい場合があります。そのような場合は、針を腫瘍の近くに入れて放射線を当てる「組織内照射」を組み合わせることで、腫瘍には線量をしっかり入れながら、正常臓器への線量を少なくすることが可能です。このような「組織内併用腔内照射」では、針を何本使うか、どこに入れるか、どのくらいの深さまで入れるかを事前に決定する必要があります。しかし、担当する医師の経験に依存することや、時間がかかることが課題となっています。そこで、近年刺入前に撮影した CT 画像からあらかじめ治療計画 (Preplan) を作成し、針の本数・位置・深さを最適化する手法が治療計画装置に取り入れられました。しかし、この Preplan で立てた計画が、実際の治療でどの程度再現できているのかについては、まだ十分に検証されていません。本研究の目的は、臨床で使用された Preplan を評価することで、腔内照射の安全性と質の向上につなげることです。

研究方法: 子宮頸がんに対する組織内併用腔内照射において、Preplan で予定された刺入する針の位置および長さ、実臨床で実際に使用された針の位置および長さを比較する。また、Preplan と実臨床における腫瘍および正常臓器の線量情報についても比較検討する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報: 臨床で使用された治療計画情報、治療計画用 CT 画像、輪郭情報等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

大阪国際がんセンター 放射線腫瘍科 研究責任者 木原 彩花

住所: 〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話: 06-6945-1181

-----以上